

パブリック・サービス研究分科会

講義年月日 2008年12月8日 午後10時10分～11時00分

講演者 古山 悟由氏（國學院大学図書館）

テーマ 國學院大學の研究支援

## 講義内容

### ①収書の指針

・収書の基本的な考え方

教育・研究目的に沿い、かつ社会的要請にも応えられる資料を収集。

本学の特色を現せる個性的な資料類を柱として蔵書を構築。

### ②収書方針

(1)収集には本学の教育・研究支える基礎的資料の充実、個性的な資料の二つがある。

(2)収書に関しては必要に応じ専門教員のアドバイスを受け具体的な基準を設ける。

(3)収書にあたっては予算を考慮し不必要な重複資料をさけること。

(4)収書にあたっては既蔵資料との調和を考えオンラインデータベース、マイクロ資料など紙ベース以外の資料にも目を配る。

### ③個性的な資料

既存の特色ある資料を形成しているものの充実を図る。

建学の精神に則り、神道関係の資料の収集。

(1)「佐佐木本」、「梧陰文庫」を中核とした明治期刊行資料を収集。

(2)古典籍(江戸以前の刊本・写本)を収集。

(3)全国の地方史(誌)を村史レベルまで網羅的に収集。

(4)民族誌・地方人名録(歴史的人名辞典)を収集。

現在所蔵されている資料を調査し特色ある資料となるものは収集の対象とする。

### ④貴重資料

貴重資料は収集基準を別に設け、専門教員のアドバイスを得て収集する。

⑤複数資料の整備

竹取物語絵巻(国内では國學院・立教・国会・諏訪市立博物館・個人蔵)

武田博士旧蔵本・ハイド氏旧蔵本・小型柘形本の3点の収集。

→小型柘形本、ハイド氏旧蔵本の2点を近年追加購入。

所属大学での比較検討が可能

科研費申請→デジタル化(通常の研究が可能)

研究終了後に図書館デジタルライブラリーに搭載可能

⑥補完資料の補充

井上毅書簡

『梧陰文庫』(井上毅旧蔵文書)を補完するため、井上毅の書簡は原則収書の対象とする。

⑦デジタルライブラリーの充実

(1)教員からの希望優先し周辺資料を補完する。

(2)原則、本学教員の研究終了もしくは資料紹介が済んだものを選定

→TVや出版社からの撮影、掲載依頼・・・間接的な大学PR

→学内での図書館認知

→外部からの撮影等の申込みに対する分析

→他機関所蔵資料との一体化